

# 集団の組織化の度合いからみたクラブ活動と 部活動の比較的研究

筑波大学 宇留田 敬 一

## 1. 調査の目的と視点

周知のように、わが国の中学校においては、昭和43年よりクラブ活動といわれる部活動の2種類の類似する教育活動が並行して実施されている。前者のクラブ活動は生徒全員がいずれかのクラブに参加して、大体週1時間程度、学校の時間割に定めた時間に活動を行なうものであり、教育課程に位置づけされた活動である。後者の部活動は、教育課程に位置づけされていない自由参加の教育活動であり、放課後や休日などに、希望する生徒が部を組織して、クラブ活動と同じような興味・関心を自主的に追求する活動である。

昭和43年の教育課程の改訂以降において、このような2種類の類似する活動が存在することになったのは、それ以前におけるクラブ活動が自由参加であったため、クラブ活動に参加し、その思恵を受ける生徒は一部の生徒に限定されていたのを改め、生徒全員が必ず参加する教育課程内のクラブ活動と、従来の自由参加のクラブ活動を受けつぐ部活動の両方を実施することにしたという経緯による。しかし、この2種類の教育活動は、いずれも教科の学習活動とは異なり、生徒が自発的・自治的にクラブおよび部を組織し、興味関心を追求する活動を行なうという共通する性格をもつものとされてきた。

ところで、この2種類の類似する教育活動を実施することに関しては、学校経営上さまざまな問題が介在していた。生徒全員がクラブ活動を行なうために必要な施設・設備・予算指導に当たる教師などの条件整備が可能か、週1時間程度のクラブ活動によって生徒に満足を与えることが可能か、教育的効果がどれだけ期待できるか、というような疑問が少なからず聞かれていたし、また全員参加のクラブ活動に対して、意欲を示さない教師も少なくなかった。このような問題に対して、国・教育委員会による条件整備の努力や学校現場の工夫が払われ、今日においては、一応すべての中学校においてクラブ活動が、また少数の例外を除き、ほとんどすべての学校において部活動が実施されている。

しかし、それにもかかわらず、いぜんとしてクラブ活動は十分な教育的な効果を上げていない、二つの類似する教育活動を実施する必要があるのか、というような懐疑的な批判も聞かれている。特にクラブ活動については、目的や目標が不明確であり、生徒は1時間の活動を楽しめばよいという意識が強く、部活動のような集団のモラルの高揚がない、教師が計画し指導しなければ何もできない、したがってクラブは人間形成に役立つ自主的な集団にまでは育たないというようなきびしい批判も少なくない。

本研究は以上のような疑問や批判に対して直接的結論を出そうとするものでもなければ、また、クラブ活動改善のための処方策を提供するものでもない。結論や処方策を考える前提として、クラブ活動や部活動が生徒にどのように考えられているか、それらの集団がどのような状況にあるかを明らかにすることを目的としている。具体的には、クラブ集団と部集団のモラルと深くかかわるそれら集団の組織化の度合いをいくつかの学校のクラブや部について明らかにし、上記のような疑問や問題を検討するデータを提供したいと考える。

ところで、集団の組織化をこの研究においてなぜ問題としたかを簡単に説明しておこう。

一般的にいつて組織化organizing の概念には、広義、秩義の二つ概念があることは周知のとおりで、ここでいう組織化は広義の概念による。この広義における組織化の意味を吉田裕は次のように平易に説明している。

＜未組織集団は＜組織化＞をつうじて組織集団になる＞という場合の組織化の概念は、広義のそれであり、集団の＜構造化＞(structurizing)と同義である。たとえば、フォーク・ソングの好きな学生たちのグループ(未組織集団)からフォーク・バンド(組織集団)が結成される場合が考えられる。前者が不特定の愛好家学生の団体的定型性(明確な秩序)を欠く一時的な集りであるのに対して、後者は、(1)継続的に遂行すべき特定の機能(フォーク演奏)ないし達成すべき目的(親睦、アンサンブル技術の向上、アルバイト)の明確化、(2)メンバーシップ(誰がメンバーで誰がそうでないか)の範囲の明確化、(3)地位と役割(リーダーとフォロアー、ソロ歌手やリードギター担当など)の分化と明確化、(4)成員の態度や行動を規制する集団規範＜＜練習をさぼるな＞＞など＞の共有と遵守、(5)物的・精神的な利害の共有にもとづく統一的なわれわれ感情の形成、などをつうじて組織集団となっていく。この意味における組織化は、一般に集団を構成する教員の相互行為がなほどこか一定した様式(定型・pattern)をもちながら持続的に行なわれ、集団が全体として相対的な定安状態(集団構造)をつくり出し維持していく過程(構造化)であるといつてよい。

現実に存在する学校のクラブ集団や部集団についても、以上のような組織化の過程が見られることはいうまでもない。したがって、上記の(1)～(5)に示されている組織化を促進する条件(要因)が、現在のクラブや部においてどのような状況にあるかを生徒に対して具体的な質問によって尋ね、その反応(回答)を調べることによって、各クラブや部の組織化の度合いを示す指標を得ることができるであろう。もし、それらの指標を総合して、全体的に高い指標が多く見られるならば、そのクラブまたは部の組織化の度合いは相対的に高いと考えることができるであろう。また、質問に対する回答を学校のクラブ及び部ごとに集計し、それを比較することによって、クラブと部の組織化の度合いを相対的にとらえることができると考えたのである。もちろん、このような方法によって、クラブ集団や部集団の組織化の度合いは、相対的にしかとらえられないなどの問題を多く残していることは否定できないが、クラブ活動や部活動の問題点を探索するために役立つ資料が得られることを期待したのである。

## 2. 調査対象と調査方法

この調査は昭和54年2月に下記の3校において、質問紙法に準じて実施された。

E校 東京都内でも山の手と下町の両方の性格をあわせ持つ中学校。校地が狭く、運動場で野球が全くできないという学校である。生活指導に積極的に取り組み、区教委の研究指定を受けている。生徒数約340名、部活動を3種類に限定し、その参加生徒は約130名と少ないことが特色である。

T校 山形県の農村地域にある広い運動場をもった中学校。生徒指導については意欲的で、かつて文部省指定研究校をしたこともある。

生徒数約800名であるが、調査ができなかった学級があるため、クラブ活動の調査人員は670名、部活動の調査人員は472名である。

N校 東京都内の住宅地にある典型的な山の手の中学校。クラブ活動に対しても積極的で、21のクラブを設けているが、校庭・体育館が狭い。生徒数約630名、クラブ活動の調査人数は600名、部活動の調査人員は455名である。

## 3. 回収結果の概要と考察

### (1) 各クラブおよび部の組織化の全体的な傾向

以下に示す表1より表6は、表の上欄に示す質問に対して、集団の組織化から考え望ましいと考えられる回答をした生徒がどの程度いるかを百分比で、クラブおよび部ごとに示したものである。たとえば、Q5「あなたはクラブ活動を楽しみますか。」という質問に対して、四つの選択肢のうち、A「非常に楽しい」、B「かなり楽しい」と答えたものを望ましい回答と考えた。ただ、Q17「あなたの部では、みんなが仲よく協力していると思いますか。」に対して、「思う」と答えたものだけを集計した。なお、紙面の関係で、表に示す質問文は実際の質問紙に書かれている以下の(2)に示すような質問文を要約して示している。

また、望ましい回答をした生徒の百分比が75パーセント以上である場合に◎印を、50パーセント以上である場合には○印を数字の左に付し、さらに表の右端にその記号の合計を示している。ただし、Q17については、40パーセント以上のものに○印をつけた。◎印および○印の記号の多少によって、集団の組織化が進んでいるか否かを相対的にとらえようと考えた。

表1から表6の全体を通してみると、次のようなことが考えられるであろう。

a 3校とも、次の表7でもわかるように、部には◎印○印が多く、クラブには少ない。特に運動関係の部には◎印○印が多くみられる。

また、クラブのなかにも少数ではあるが◎印○印の多いものが見られる。(たとえばN校のコーヒー研究クラブ、ソフトボールクラブ、E校の演劇クラブなど)

各校ごとに、◎と○の数によってクラブおよび部を分類すると次のようになる。

表1 E校クラブ活動

質問		Q 5	Q 7	Q 10	Q 11	Q 12
クラブ名 と調査人数		活動が楽しい	力が伸びる きたえられる	みんなの目標 がある	クラブ・部を よくするため の話し合いが ある	活動を生徒 みんなで作 りだすため の話し合いが ある
1	バスケット	32	◎ 81.3	○ 71.9	◎ 87.5	15.6
2	バドミントン	17	35.3	○ 58.8	11.8	0.0
3	卓球	23	◎ 69.6	○ 65.2	17.4	47.8
4	キャッチボール	14	○ 50.0	○ 50.0	14.3	○ 57.1
5	剣道	15	○ 66.7	◎ 80.0	66.7	6.7
6	バレーボール	44	◎ 79.5	◎ 75.0	9.1	9.1
7	手芸・調理	17	41.2	○ 58.8	11.8	11.8
8	台帳	19	36.8	○ 52.6	10.5	52.6
9	囲碁将棋	22	◎ 77.3	◎ 77.3	13.6	31.8
10	遊戯	36	○ 52.8	22.2	29.5	36.1
11	映画	44	◎ 86.4	○ 54.5	43.2	15.9
12	美術	33	◎ 78.8	42.4	18.2	30.3
13	商売	23	( ) 56.5	( ) 65.2	◎ 95.6	( ) 73.9

表2 E校部活動

1 バスケット	37	◎	81.1	◎	89.2	( )	70.3	( )	56.8	43.2
2 バレーボール	65	◎	89.2	◎	96.9	◎	78.5	( )	64.6	29.2
3 フリスビー	27	◎	77.8	◎	77.8		44.4	18.5		25.9

Q 13 目標に自分の 意見が生かされてい る	Q 14 活動計画を 作っている	Q 17 仲よく協力 している	Q 18 自分の役割 を知っている	Q 23 生徒の指導・世話 を受ける	Q 28 きまりがある と思う	◎ ○ の 計
46.9	18.8	40.6	○ 68.8	◎ 78.1	40.6	◎ ○ ○
17.6	29.4	11.8	○ 52.9	29.4	47.1	◎ ○
30.4	4.3	34.8	47.8	21.7	13.0	◎ ○
28.6	0	7.1	42.9	◎ 85.7	○ 57.1	◎ ○ ○
26.6	20.0	33.3	33.3	○ 66.7	40.0	◎ ○ ○
27.2	6.8	13.6	○ 50.0	○ 61.4	36.4	◎ ○ ○
17.6	11.8	29.4	35.3	◎ 76.5	5.9	◎ ○
31.6	21.1	5.3	◎ 78.9	◎ 78.9	5.3	◎ ○ ○
31.8	45.5	40.9	( ) 54.5	○ 50.0	9.1	◎ ○ ○
30.6	11.1	41.7	44.4	41.7	30.6	◎ ○
29.5	22.7	27.3	45.5	15.9	25.0	◎ ○
39.4	24.2	21.2	( ) 51.5	( ) 54.5	12.1	◎ ○ ○
47.8	30.4	13.0	◎ 82.6	◎ 78.3	0	◎ ○ ○ ○ ○

51.4	( ) 51.4	40.5	( ) 59.5	◎ 89.2	29.7	◎ ○ ○ ○ ○
67.7	44.6	50.8	( ) 72.3	◎ 89.2	49.2	◎ ○ ○ ○ ○
48.1	44.4	11.1	◎ 81.5	◎ 88.9	7.4	◎ ○ ○ ○ ○

表3 T校クラッ活動

クラッ 質問	名前と親人数		Q 5	Q 7	Q 10	Q 11	Q 12
	型	35	514	229	371	229	657
1 模	型	35	514	229	371	229	657
2 工	芸	64	656	406	484	203	641
3 庭	器	47	404	754	319	255	574
4 手	芸	32	563	719	500	219	574
5 書	道	46	630	870	587	196	696
6 イ レ ダ リ ン グ	ス ト ン グ	37	703	811	757	405	378
7 百 人 一 首	一 首	17	765	824	412	412	765
8 絵 画	画	20	500	500	400	00	350
9 器 用	用	99	626	707	364	121	333
10 レ コ ー ド 鑑 賞	鑑 賞	45	711	311	444	333	600
11 字 體	體	58	431	586	259	207	259
12 ペ ン シ ル	シ ル	16	438	312	313	313	438
13 音 楽	楽	22	364	636	682	227	409
14 冊 本	本	19	316	474	368	00	526
15 フ ォ ト グ ラ フ	グ ラ フ	35	486	400	343	114	286
16 パ ズ ル	ル	18	833	777	500	56	500
17 身 術	術	45	422	533	200	67	111
18 英 会 話	話	15	667	933	267	133	533

Q 13	Q 14	Q 17	Q 18	Q 23	Q 28	◎○の計
Q 13	Q 14	Q 17	Q 18	Q 23	Q 28	◎○の計
314	571	86	343	314	57	○○
516	453	297	539	343	61	○○
383	489	213	404	277	149	○○
594	719	406	438	281	125	○○○
391	478	283	522	438	43	○○○
703	378	351	568	243	81	○○○
647	412	294	471	706	59	○○○
400	850	200	450	350	50	○○
374	242	343	475	333	343	○○
356	489	89	644	600	267	○○○
310	224	103	448	276	172	○
455	625	375	500	750	00	◎○○
364	300	500	650	682	100	○○○
263	158	211	316	368	263	○
200	114	229	486	629	57	○
444	111	111	444	278	56	○○○
111	00	267	200	222	89	○
467	200	333	200	600	00	◎○○○

表 4 T 校部活動  
(科学クラブは調査人数が少いため集計から除外した)

部名と 調査人数	質問	Q 5 活動が楽しい	Q 7 力が伸びる きたえられ る	Q 10 みんなの目 標がある	Q11 部をよくす るための話 し合いがあ る	Q12 活動をみん なで決める
1 部 士	9	○ 55.6	33.3	22.2	○ 55.6	◎ 88.9
2 英 術	16	37.5	○ 68.8	○ 50.0	◎ 75.0	◎ 81.2
3 家 庭	17	○ 70.6	◎ 88.2	47.1	○ 58.8	47.1
4 科 学	5					
5 プラスバンド	34	47.1	◎ 76.5	○ 70.6	41.2	○ 52.9
6 男子バレー	22	○ 50.0	◎ 95.5	◎ 86.4	○ 54.5	31.8
7 女子バレー	29	◎ 75.9	◎ 93.1	◎ 86.2	○ 55.2	24.1
8 サッカ－	34	○ 61.8	◎ 85.3	○ 64.7	44.1	47.1
9 陸 上	26	46.2	◎ 92.3	◎ 80.8	◎ 92.3	○ 50.0
10 バスケケット	65	○ 61.5	◎ 84.6	◎ 81.5	○ 64.6	41.5
1 野 球	46	○ 73.9	◎ 100.0	◎ 97.8	◎ 84.8	○ 50.0
12 剣 道	43	○ 58.1	◎ 88.4	○ 72.1	41.2	○ 58.1
13 テニス	53	○ 67.9	◎ 86.8	○ 62.3	○ 64.2	○ 52.8
14 柔 道	14	○ 64.3	◎ 100.0	◎ 85.7	○ 57.1	○ 61.3
15 卓 球	21	○ 52.4	◎ 81.0	◎ 85.7	33.3	○ 52.4
16 ソフトボール	38	○ 57.9	◎ 86.8	◎ 81.6	○ 50.0	○ 73.7

Q13 目標に自分 の意見が生 かされてい る	Q 14 活動計画を つくってい る	Q 17 仲よく協力 している	Q 18 自分の役割 を知ってい る	Q 23 上級生から 指導・世話 を受ける	Q 28 きまりがあ ると思う	◎ ○ の計
44.4	22.2	33.3	22.2	○ 66.6	0.0	◎ ○ ○
○ 62.5	◎ 75.0	25.0	31.3	◎ 100.0	6.3	◎ ◎ ◎ ◎
○ 64.7	○ 70.6	41.2	47.1	◎ 100.0	17.6	◎ ◎ ◎ ◎
47.1	○ 55.9	11.8	○ 70.6	◎ 94.1	26.5	◎ ◎ ◎ ◎
○ 63.6	31.8	27.3	◎ 77.3	◎ 90.9	13.6	◎ ◎ ◎ ◎
○ 59.1	24.1	○ 58.6	○ 65.5	◎ 86.2	27.6	◎ ◎ ◎ ◎
○ 68.2	41.2	5.9	○ 50.0	◎ 79.4	20.6	◎ ◎ ◎ ◎
35.3	23.1	11.5	42.3	◎ 92.3	23.1	◎ ◎ ◎ ◎
49.2	27.7	46.1	○ 52.3	◎ 83.8	40.0	◎ ◎ ◎ ◎
○ 65.2	47.8	28.4	◎ 80.4	◎ 93.5	56.5	◎ ◎ ◎ ◎
○ 53.5	11.6	23.3	○ 55.8	◎ 97.7	16.3	◎ ◎ ◎ ◎
41.5	26.4	17.0	○ 60.4	◎ 88.7	22.6	◎ ◎ ◎ ◎
○ 57.1	28.6	○ 50.0	○ 57.1	◎ 100.0	21.4	◎ ◎ ◎ ◎
15.0	23.8	33.3	28.6	◎ 90.5	38.1	◎ ◎ ◎ ◎
47.4	28.9	21.1	39.5	◎ 78.9	23.7	◎ ◎ ◎ ◎

表5 N校クラブ活動

クラブ名 と調査人数	質問	Q 5 Q 7 Q 10 Q 11 Q 12									
		活動が楽しい	力が伸びる	みんなの目標がある	クラブ・部をよくする	活動計画を					
1 科 学	10	◎ 77.5	○ 57.5	○ 52.5	20.0	10.0					
2 レース 競 走	8	○ 62.5	25.0	25.0	12.5	○ 50.0					
3 園 芸	18	44.4	44.4	38.9	27.8	16.7					
4 か ら た	21	○ 57.1	28.6	42.9	4.8	○ 57.1					
5 囲 碁	36	19.4	30.6	30.6	5.6	33.3					
6 進 球	30	13.3	20.0	20.0	6.7	16.7					
7 将 棋	36	○ 50.0	27.8	38.9	8.3	16.7					
8 フォーダ・ 7 ソンサングル	20	40.0	15.0	15.0	◎ 85.0	○ 50.0					
9 合 唱	49	44.9	○ 53.1	○ 53.1	14.3	20.4					
10 川 柳	37	43.2	21.6	21.6	18.9	8.1					
11 イディカル トレディング	17	41.2	35.3	◎ 76.5	11.8	17.6					
12 茶 道	18	◎ 77.7	27.8	○ 55.6	5.6	9.8					
13 人 形 劇	26	42.3	18.4	15.4	11.5	42.3					
14 読 書	17	41.2	35.3	○ 58.8	○ 58.8	7.6.5					
15 折 り 紙	36	36.1	13.9	27.8	5.6	19.4					
16 コーヒー研究	29	◎ 86.2	○ 55.2	48.3	34.5	○ 51.7					
17 旅行 研 究	16	○ 50.0	31.6	31.3	43.8	○ 62.5					
18 卓 球	22	○ 68.2	22.7	○ 54.5	22.7	45.5					
19 ベートン	40	○ 72.5	50.0	○ 57.5	17.5	12.5					
20 バレーボール	41	29.3	24.4	34.1	12.2	43.9					
21 ソフトボール	43	◎ 79.1	○ 55.8	◎ 83.7	11.6	23.2					

Q 13	Q 14	Q 17	Q 18	Q 23	Q 28	◎の 計
目標に自分 の意見が生 かされてい る	活動計画を 作っている	仲よく協力 している	自分の役割 を知ってい る	上級生の指 導・世話を 受ける	きまよりあ らうと思う	
37.5	35.0	32.5	○ 62.5	55.0	22.5	◎
○ 50.0	25.0	12.5	○ 50.0	37.5	0.0	◎
11.1	22.2	22.2	27.8	◎ 88.8	0.0	◎
28.6	91.1	23.8	28.6	38.1	9.5	◎
18.9	0.0	11.1	30.6	25.0	13.9	
6.7	6.7	43.3	36.7	30.0	43.3	
13.9	5.6	19.4	47.2	27.8	○ 50.0	◎
○ 70.0	○ 55.0	○ 50.0	◎ 80.0	35.0	0.0	◎
28.6	18.4	12.2	○ 59.2	44.9	14.3	◎
16.2	8.1	29.7	32.4	40.5	5.4	
29.4	17.6	11.8	29.4	47.1	0.0	◎
44.4	16.7	27.8	○ 66.7	27.8	11.1	◎
15.4	19.2	7.7	○ 65.4	34.6	7.7	
47.1	◎ 82.3	35.3	○ 64.7	35.3	17.6	◎
30.6	○ 58.3	27.8	27.8	22.2	2.8	◎
○ 51.7	27.6	48.3	◎ 75.9	○ 62.1	○ 65.5	◎
43.7	31.3	37.5	○ 50.0	○ 62.5	6.3	◎
40.9	13.6	27.3	40.9	36.4	18.2	◎
17.5	12.5	17.5	42.5	17.5	○ 52.5	◎
21.4	4.9	22.0	43.9	43.9	○ 68.4	◎
◎ 79.1	18.6	○ 53.5	○ 65.1	○ 65.1	◎ 83.4	◎

表 6 N校部活動

部 名 と 関 係 人 数	質 問	Q 5	Q 7	Q 10	Q 11	Q 12
		活動が楽しい	力がのびる きたえられ る	みんなの目 線がある	クラブ・部 をよくする ための話し 合いがある	活動を生徒 みんなで決 める
1 バスケ	77	◎ 80.5	◎ 90.9	◎ 83.1	◎ 67.5	33.8
2 山	13	○ 69.2	○ 69.2	38.5	38.5	○ 53.8
3 サッカー	39	◎ 79.5	◎ 94.9	◎ 92.3	○ 56.4	23.1
4 卓球	61	○ 68.9	◎ 86.9	○ 50.8	○ 54.1	41.0
5 バレーボール	81	◎ 76.5	◎ 92.6	◎ 85.2	○ 71.6	○ 58.0
6 水	24	◎ 79.2	◎ 87.5	○ 62.5	45.8	16.7
7 陸上	27	○ 51.9	◎ 92.6	48.1	◎ 81.5	37.0
8 グラサバード	44	◎ 95.5	◎ 86.4	◎ 95.5	○ 54.5	○ 72.7
9 ダンス	30	◎ 83.3	○ 73.3	◎ 86.7	○ 50.0	◎ 86.7
10 英語	9	○ 55.6	◎ 88.9	44.4	44.4	33.3
11 合唱	21	◎ 81.0	◎ 85.7	○ 57.1	28.6	33.3
12 美術	15	40.0	○ 66.7	20.0	40.0	40.0
13 天体生物	14	○ 50.0	○ 71.4	42.9	35.7	○ 71.4

Q 13	Q 14	Q 17	Q 18	Q 23	Q 28	◎ 入りの計
目標に自分の 意見が生かされてい る	活動内容を作 っている	仲よく協力 している	自分の役割 を知っている	生徒の指導・忠告を 受ける	きまりがある と思う	
49.4	16.9	○ 51.9	○ 67.5	◎ 92.2	◎ 77.9	◎ ◎ ◎ ◎
○ 54.8	23.1	30.8	◎ 76.9	○ 61.5	15.4	◎
35.9	7.7	33.3	○ 64.1	◎ 84.6	38.5	◎ ◎ ◎
49.2	19.7	11.8	○ 52.5	◎ 85.2	○ 52.5	◎ ◎ ◎
○ 60.5	18.5	41.8	○ 70.4	◎ 97.5	48.1	◎ ◎ ◎ ◎
41.7	33.3	○ 50.0	45.8	37.5	8.3	◎ ◎ ◎
37.0	22.2	25.9	○ 55.5	◎ 77.8	44.4	◎ ◎
○ 56.8	○ 65.9	◎ 75.0	◎ 86.4	◎ 93.2	○ 50.0	◎ ◎ ◎ ◎
◎ 76.7	◎ 83.3	46.7	◎ 76.7	◎ 100.0	36.7	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
33.3	33.3	22.2	○ 55.6	○ 66.7	11.1	◎ ◎
○ 57.1	47.6	○ 52.4	○ 66.7	33.3	9.5	◎ ◎ ◎
46.7	40.0	13.3	40.0	○ 53.3	13.3	◎
○ 50.0	○ 57.1	35.7	○ 57.1	○ 57.1	28.6	◎ ◎ ◎



表 7

		クラブの数	◎○が 0－2	◎○が 3－6	◎○が 7－10	◎○が 11－12
ク ラ ブ	E 校	1 3	4	8	1	0
	T 校	1 8	6	1 2	0	0
	N 校	2 1	1 3	6	2	0
部	E 校	3	0	1	2	0
	T 校	1 5	0	8	7	0
	N 校	1 3	1	7	4	1

- b 一つの学校内に同じ活動をするクラブと部が設けられている例がいくつか見られるが、（たとえばE校におけるバスケットクラブと部，バレーボールクラブと部）すべて部の方に◎○の数が多く見られる。

以上のような回答結果からするならば，部の方がクラブよりも全体として組織化の進んでいると考えることができよう。しかし，少数ではあるが，組織化の進んでいるクラブがあることを考えるならば，クラブであっても，組織化の進んだ集団を育てる可能性がないとはいえないであろう。また部においても組織化の度合の低いものが，少なからず見られていることも見過してはならないであろう。

## (2) 各質問ごとに見た回答傾向

各質問に対するクラブや部の反応の傾向を明らかにするとともに，それと関連する問題をさぐってみよう。

Q 5 —— 「あなたはクラブ（部）活動を楽しみますか」の問に対して，「楽しい」「かなり楽しい」と答えたものを組織化から考えて望ましい回答とした。この二つの回答を選んだ生徒数が50パーセント以上に達している（◎，○のついている）クラブおよび部の数を各校ごとに示すと次のようになる。

表 8

( ) 内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	1 0 ( 1 3 )	3 ( 3 )
T 校	1 5 ( 1 8 )	1 2 ( 1 5 )
N 校	1 0 ( 2 1 )	1 2 ( 1 3 )
計	3 5 ( 5 2 )	2 7 ( 3 1 )

左の表8によってもうかがえるように全体として，部活動の方が望ましい反応をより多く示している。しかし，E校T校において，活動が楽しいと回答した生徒数が半数以上に達しているクラブは全体の7割にも及んでいる。また，運動関係の部においては，かなりきびしい練習が行なわれていると言われているにもかかわらず，楽しいという回答がきわめて多いことにも注目したい。

Q7——「あなたはクラブ（部）活動をすることによって、自分の力が伸びるとか、自分がきたえられると思うことがありますか。」という問いに対して、「しばしばある」「たまにある」を望ましい回答とした。その回答が50パーセント以上のクラブおよび部の数を学校ごとに示すと次の表9のようになる。

表9

( ) 内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	12 ( 13 )	3 ( 3 )
T 校	12 ( 18 )	14 ( 15 )
N 校	5 ( 21 )	13 ( 13 )
計	29 ( 2 )	30 ( 31 )

左の表9によってもうかがえるように、部についてはほとんどが望ましい回答傾向を示している。これに対して、クラブではN校とE校が大きな差を示している。

Q10——「あなたのクラブ（部）には、みんなが協力して達成（実現）しようとする目標があると思いますか。」という問いに対して、「思う」「はっきりと言えないがあるように思う。」と答えたものを望ましい回答と考えた。望ましい回答の比率が50パーセントを越えているクラブおよび部の数を、学校別に示すと次のようになる。

表10

( ) 内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	3 ( 13 )	2 ( 3 )
T 校	4 ( 18 )	13 ( 15 )
N 校	8 ( 21 )	8 ( 13 )
計	15 ( 52 )	23 ( 31 )

左の表10によってもうかがえるように、望ましい回答が50パーセント以上に達しているクラブは、部に比べて、きわめて少ない。運動関係の部（クラブ）やコンクールに出場するような部（クラブ）は目標が明確であるため、この質問に対して望ましい回答が多くなるのは当然としても、T校のイラストレティングクラブ、書道クラブ、

N校のメディカルトレーニングクラブのような地道な活動をするクラブでも高い数値を示していることに注目したい。

Q11——「あなたのクラブ（部）では、自分たちのクラブ（部）をこのようなものにしよう、こんなクラブ（部）にしよう、ということについて話し合ったことがありますか。」という問いに対して、「しばしばある」「たまにある」を望ましい回答とした。このような回答の比率が高いクラブおよび部の数は、次の表11のとおりである。

表 1 1

( ) 内の数は全体数

	ク ラ ブ	部
E 校	2 ( 1 3 )	2 ( 3 )
T 校	0 ( 1 8 )	1 1 ( 1 5 )
N 校	2 ( 2 1 )	7 ( 1 3 )
計	4 ( 5 2 )	2 0 ( 3 1 )

左の表 1 1 によってもうかがえるように、望ましい回答が 5 0 パーセントに達しているクラブはきわめて少ないが、これに対して、部では約 3 分の 2 に及んでいる。週 1 回程度のクラブ活動では、集団のあり方や運営についても、話し合う時間がとれないという事情も考えられるが、それ以上に生徒・教師のクラブ活動

そのものに対する考え方に問題があるのではなかろうか。

Q 1 2 — 「あなたのクラブ ( 部 ) では、どんな活動をするかを、どのようにして決めていますか。」という問いに対して、次のような選択肢を与えた。

- A 先生が決める。
- B みんなの意見や希望をもとにして先生が決める。
- C 先生の話を参考にして、みんなで決める。
- D 生徒みんなで決める。
- E 生徒の一部のもので決める。

以上の選択肢のうち、C と D を望ましい回答として集計を行なった。望ましい回答が 5 0 パーセント以上のクラブおよび部は次の表 1 2 のとおりである。

表 1 2

( ) 内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	3 ( 1 3 )	0 ( 3 )
T 校	1 0 ( 1 8 )	1 0 ( 1 5 )
N 校	6 ( 2 1 )	5 ( 1 3 )
計	1 9 ( 5 2 )	1 5 ( 3 1 )

左の表によってもうかがえるように、T 校には望ましい回答が 5 0 パーセントを越えるクラブと部が比較的多く見られるが、他の 2 校にはその数がきわめて少ない。クラブや部において、どのような活動を行なうかを生徒が中心になって ( イニシアチブをとって ) 決めることは、組織内民主主義からしても、また集団成員

のモラルを高める点から考えても当然なことといわなければならないであろう。このような集団の性格が確立されていないクラブおよび部が多いことに、今後取り組むべき問題があるといえよう。なお、クラブの場合には、週 1 時間という活動時間の制約がこのような結果を生んでいる一つの原因とも考えられる。

Q 1 3 — 「あなたのクラブ ( 部 ) の目標には、あなたの希望や意見が生かされていると思いますか。」という問いに対して、「思う」「少しは思う」を望ましい回答とした。望ましい回

答が50パーセント以上のクラブおよび部は、次の表13のとおりである。

表13

( )内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	0 ( 1 3 )	2 ( 3 )
T 校	4 ( 1 8 )	8 ( 1 5 )
N 校	4 ( 2 1 )	6 ( 1 3 )
計	8 ( 5 2 )	1 6 ( 3 1 )

左の表によってもわかるように、望ましい回答が50パーセント以上のクラブ、部は全体として少ないが、特にクラブにその傾向が著しい。集団の目標にその成員の希望や意見が反映されているとき、成員の目標達成への意欲が高まることを考えるならば、この点にしてもクラブ、部の取り組まなければならない課題が見出せるであろう。

Q14 — 「あなたのクラブ(部)では、年間または学期の活動計画を作っていますか。」という問いに対して、「いる」と答えたものを望ましい回答とした。望ましい回答が50パーセント以上のクラブおよび部は次の表14のとおりである。

表14

( )内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	0 ( 1 3 )	1 ( 3 )
T 校	4 ( 1 8 )	3 ( 1 5 )
N 校	3 ( 2 1 )	3 ( 1 3 )
計	7 ( 5 2 )	7 ( 3 1 )

表14を一見してわかることは、全体としても、またクラブや部としても、活動計画を作っていると考えている生徒が少ないことである。クラブ活動や部活動は教科の学習と異なり、生徒のイニシアチブによって活動が進められるところにその独特な教育的価値が存在する。また、生徒が自分の希望や考えを反映させた活

動計画を作ることによって、集団化の過程が促進されるものと考えられる。しかし、回答結果においては、活動計画を作っているという生徒の数がきわめて少いクラブおよび部が多いことは、どのようなことを意味しているのだろうか。クラブや部によっては、活動計画ということばを用いていなかったり、生徒のなかには活動計画の意味がわからなかったりしたため、低い数値が出されているということがあるかもしれない。しかし、その反面、少数ではあるが、望ましい回答が50パーセントを越えているクラブや部があることを考えるならば、やはり活動計画を作っていないクラブや部が多いと考えなければならないであろう。(あるいは、その作成に生徒が参加しているという意識に欠けているというべきかもしれない。)ここにも重要な課題があると考えねばならない。

Q17 — 「あなたのクラブ(部)では、みんなが仲よく協力していると思いますか。」と

いう問いに対して、「思う」と回答したものだけを、望ましい回答とした。このため、望ましい回答が40パーセント以上のクラブおよび部に◎印○印を付けることにした。40パーセント以上のクラブおよび部は、次の表15のとおりである。

表15

( )内の数字は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	3 ( 1 3 )	2 ( 3 )
T 校	2 ( 1 8 )	4 ( 1 5 )
N 校	4 ( 2 1 )	6 ( 1 3 )
計	9 ( 5 2 )	1 2 ( 3 1 )

望ましい回答が75パーセントに達しているN校のプラスバンドクラブでは、その他の質問のすべてにおいて望ましい回答が50パーセントを越えていることにも注目したい。

Q18 — 「あなたはクラブ(部)の中で自分がはたさなければならない役割が何であるか、知っていますか。」という問いに対して、「よく知っている」「大体知っている」と答えたものを望ましい回答とした。この回答が50パーセント以上のクラブおよび部の数は次のとおりである。

表16

( )内の数は全体数

	ク ラ ブ	部
E 校	7 ( 1 3 )	3 ( 3 )
T 校	5 ( 1 8 )	9 ( 1 5 )
N 校	1 0 ( 2 1 )	9 ( 1 3 )
計	2 2 ( 5 2 )	2 1 ( 3 1 )

表15を一見してわかるとおり、全体として、望ましい回答をしているクラブおよび部がきわめて少ない。生徒は「みんなが仲よく協力していると思う。」という状態をシビアーに考えているためかもしれない。部に比べクラブの方がはるかに少ないことは、他の質問と同様な傾向を示している。この問いに対して、望

表16によってもうかがえるように、クラブに比べて部の方がはるかに多いのは、それだけ部における役割の分化や明確化が進んでいるからであろう。

Q23 — 「あなたはクラブ(部)の中で、上級生から世話をしてもらったり、教えてもらったりすることがありますか。」という問いに対して、「かなりある」「たまにある」の両方を望ましい回答とした。その回答が50パーセント以上のクラブおよび部の数は、次のとおりである。

表 1 7

( ) 内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	1 0 ( 1 3 )	3 ( 3 )
T 校	6 ( 1 8 )	1 5 ( 1 5 )
N 校	5 ( 2 1 )	1 1 ( 1 3 )
計	2 1 ( 5 2 )	2 9 ( 3 1 )

るところに、集団の組織化が促がされていく。上記のような結果からするならば、クラブ活動においては、上級生、下級生の望ましい人間関係の樹立に一層の改善を図ることが必要であろう。

Q 2 8 — 「あなたのクラブ(部)にはみんなが守らなければならないきまり(たとえば用具の準備やあとかたづけの分担、練習のルールなど)があると思いますか。」という問いに対して、「はっきりとしたきまりがいくつかある」「はっきりとしたきまりとはいえないが、あるように思う」の両方を望ましい回答とした。この望ましい回答が50パーセント以上のクラブおよび部の数は、次のとおりである。

表 1 8

( ) 内の数は全体数を示す

	ク ラ ブ	部
E 校	1 ( 1 3 )	0 ( 3 )
T 校	0 ( 1 8 )	1 ( 1 5 )
N 校	5 ( 2 1 )	3 ( 1 3 )
計	6 ( 5 2 )	4 ( 3 1 )

部が少なくないのはなぜであろうか。望ましい回答が10パーセント以下のクラブおよび部を上げると次のようになる。

表 1 7 によってもわかるように、大半の部が50パーセント以上望ましい回答をしているのに対して、クラブの場合は半数にも達していない。クラブおよび部は上級生、下級生が混在している異年齢集団であることに、その独自の教育的価値が期待されているし、質問に述べられているような相互作用が活発に行なわれ

左の表によってもわかるように、何らかの集団規範があると意識している生徒の数は、各校、クラブ、部ともにきわめて少ない。クラブまたは部の目標を達成するためだけでなく、集団そのものを維持していくためにも、何らかの集団規範が必要であるが、そのようなものがあると思わない生徒が大半を占めるクラブや

表 1 9

	ク ラ ブ	部
E 校	手芸調理, 合唱, 囲碁将棋, 演劇	ブラスバンド
T 校	模型, 工芸, 書道, イラストタリング, 百人一首, 絵画, ペンパル, 音楽, フォークダンス, バトミントン, 護身術, 英会話	郷土, 美術
N 校	レース編み, 園芸, かるた, 川柳, リコーダアンサンブル, メディカルトレーニング, 人形劇, 折り紙, 旅行研究	合唱, 陸上

上記の表 1 9 から考えるならば, 集団規範を意識しない生徒は, 部よりもクラブに多く, またそのクラブも文化関係のクラブがきわめて多いといえる。ここにも, クラブが取り組まなければならない一つの重要な問題があるといえよう。

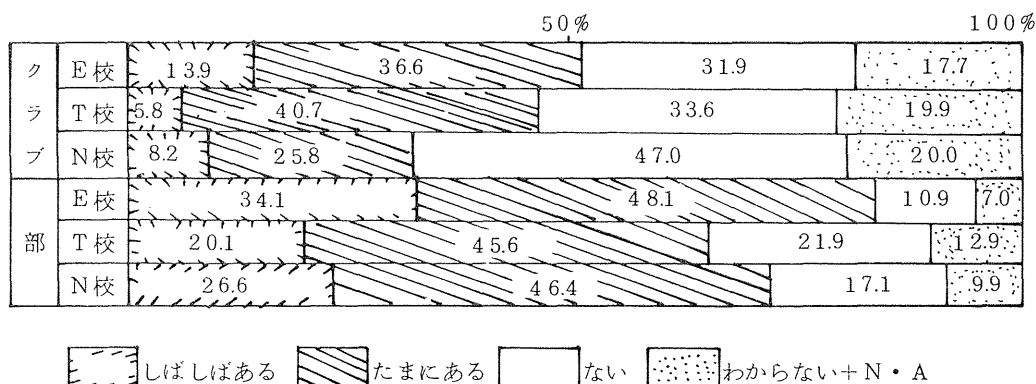
### (3) その他の回収結果によるクラブと部の全体的な比較

3 校の生徒全体の回答をクラブと部に分けて, 比較することにより, クラブと部の組織化の度合に關係する副次的な資料がいくつか得られているので, 次にそれらを紹介したい。

#### a 活動時における生きがいや満足感の比較

Q 6「あなたはクラブ(部)活動をしている時に, 生きがいや満足感を感じることがありますか。」という問に対して, 「しばしばある」「たまにある」「ない」「わからない」の選択肢を与えて回答を求めたが, 3 校のクラブ, 部について, 次のような結果が見られている。

表 2 0 生きがい, 満足感の比較 (数字はパーセント)



「しばしばある」「たまにある」の選択肢を選んでいる生徒の比率は、3校ともクラブ活動よりも部活動に多く、その差も大きくひらいている。生きがいや満足感をクラブや部が与えることは、それぞれの集団の業績と考えることができるであろう。このような業績は集団のモラルに左右されることを考えるならば、クラブは部と比べて集団のモラルがかなり低いと考えなければならない。

#### b 集団に対する忠誠心の比較

集団の業績そのものとはいえないが、業績を生み出す重要な要因としての集団に対する忠誠心を、次のような質問によって調査を行なった。

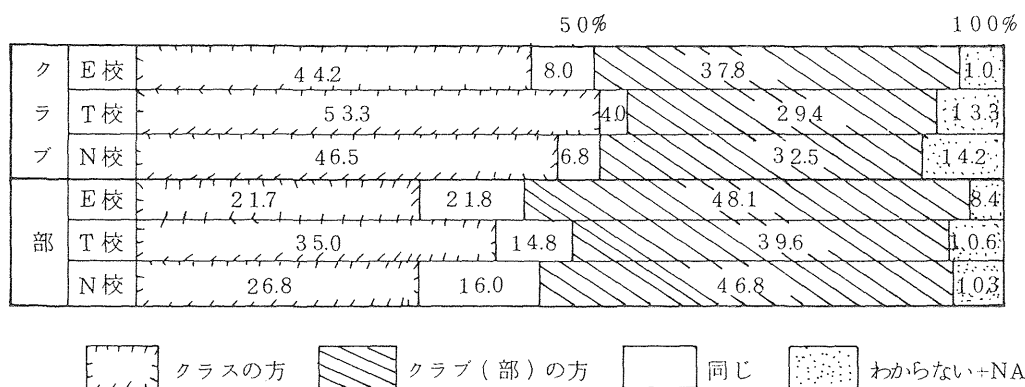
Q22— あなたは「クラスのために」仕事をする事と、「クラブ(部)のために」仕事をする事とを比べると、どちらに力を入れていますか。」

選択肢

- A 大体において「クラスのため」の方。
- B 大体において「クラブ(部)のため」の方。
- C 両方ともほぼ同じ。
- D わからない。

回答結果を百分比で示すと、次の表21のようになる。

表21 集団に対する忠誠度の比較



上記の表はクラスに比べ、クラブと部を選んだ回答の比率は、3校とも低いことを示している。このことは、クラスが学校における生活の基礎集団という性格を強くもつことを示しているものと考えられる。しかし、クラブと部を比べると、部を選んだ生徒がクラブの2～3倍に達していることは、部に対する忠誠度がクラブに対するよりもはるかに高いことを示していると考えられよう。



ただ、以上の回答結果の解釈は、クラスに対する生徒の忠誠度がすべて同じという前提に立っているが、実際にはクラスによって、生徒のクラスに対する忠誠度は異なっているのであるから、厳密な数値とはいえないことをおことわりしておきたい。

### c 同一化の対象としての上級生の有無の比較

クラブおよび部は異年齢集団という性格をもっている。もし、クラブや部の中に、同一化の対象として、上級生や先輩が多くいるのであれば、クラブや部は魅力のある集団となるし、またよい先輩上級生を下級生が見なろうという教育的な効果も期待されることになる。このような観点から次のような質問を試みてみた。

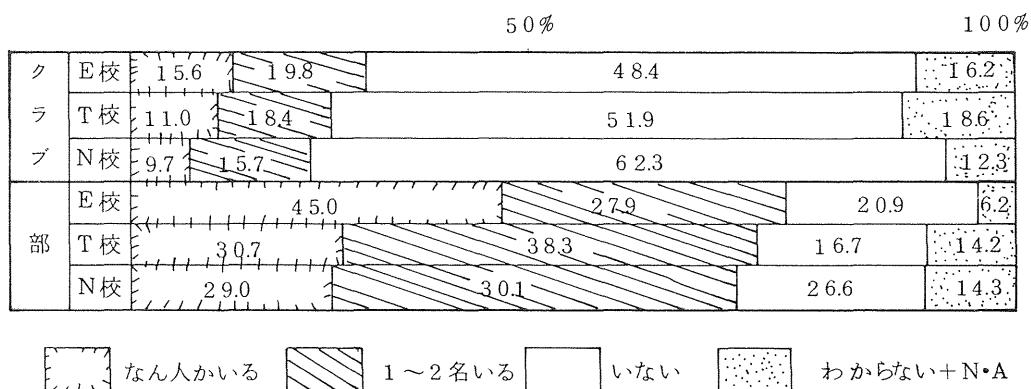
Q 24 — 「あなたは部（クラブ）の中に、自分もそのような人になりたいと思うような尊敬する上級生（または先輩）がいますか。」

選択肢

- A なん人在る。
- B 1～2名いる。
- C いない。
- D わからない。

回答結果を百分比で示すと、次の表 2 2 のようになる。

表 2 2 同一化の対象としての上級生，先輩の比較



上記の図でもわかるように、同一化の対象である上級生（先輩）を見出している比率は、クラブと部では大きな差を示している。部においては大体において3分の2の生徒が、同一化の対象としての上級生（先輩）をもっていることになるが、クラブの場合は25～30パーセントである。ここにも、1時間の活動だけを楽しめばよいという生徒のクラブに対する考え方が反映しているといえそうである。

d 相談相手としてのクラブおよび部の指導教師

Q31においては、次の問いによって生徒がクラブおよび部の指導に当る教師に相談したいと思うかどうかを尋ねている。

Q31—「あなたはクラブ(部)をしている先生に、自分の悩みや困っていることを相談したいと思いますか。」





選択肢

- A 思う。
- B 問題によっては、そう思う。
- C 思わない。
- D わからない。

回答結果を百分比によって示すと、次の表23のようになる。

表23 悩みをクラブまたは部の先生に相談するか。

		50%		100%	
ク ラ ブ	E校	4.1	20.9	56.0	18.9
	T校		20.3	57.3	18.8
	N校		22.2	59.8	14.8
部	E校	14.0	24.0	45.7	16.3
	T校	5.3	25.2	53.0	16.5
	N校	5.3	27.9	47.5	19.3

 思う
  問題によっては、そう思う
  思わない  
 わからない

選択肢のAおよびBを選んだ生徒の計は、クラブで25パーセント程度、部では30～38パーセントであり、その差は大きいとはいえないが、部の方が好ましい傾向を示している。クラブおよび部の指導者に対する生徒の信頼度を考える一つのデータであるが、集団の組織化の度合いとの関係は明らかではない。

(付記)

この調査に関して、筑波大学加藤隆勝教授より貴重な御示唆をいただいたことを付記し、感謝の意を表したい。